

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和4年8月25日（木）
13時31分～15時12分
全 員 協 議 会 室

【出席者】三浦委員長、村武副委員長、
肥後委員、村木委員、大谷委員、沖田委員、川上委員、小川委員、
上野委員、川神委員

【共同研究受託者】光延島根県立大学特任教授

【議長団】笹田議長

【事務局】河上局長、小寺書記

議題

- 1 主権者教育の推進について……………資料1
 - (1) 島根県立大学との共同研究
 - (2) その他

- 2 はまだ議会だよりVol. 67について……………資料2
 - (1) ページレイアウト
 - (2) 掲載記事及び原稿提出締切
 - (3) その他

- 3 はまだ議会だよりminiについて……………資料3
 - (1) 第16号掲載内容及び原稿担当
 - (2) その他

- 4 議会報告会について……………資料4
 - (1) 集約意見の確認
 - (2) その他

- 5 その他

【次回委員会開催予定日】令和4年9月16日（金）午後1時30分 全員協議会室

【議事の経過】

[13時 31分 開議]

三浦委員長

議会広報広聴委員会を始める。出席委員10名で定足数に達している。今日の議題はその他含めて5点ある。議題一つ目は主権者教育の推進についてで、県立大学との共同研究について光延先生にお忙しい中お越しいただいている。事業内容について少しお話を伺うことになっている。早速議題に沿って進める。

1. 主権者教育の推進について

(1) 島根県立大学との共同研究

三浦委員長

今日は光延先生がいらしているので先生からまずお話を伺い、委員との情報交換に充てたい。

光延特任教授

公式の会議の一端に説明させていただく。ご存じのように浜田市とは共同研究をしており、今回は主権者教育を募集されていたため私が応募した経緯である。過日採択を受けた。大きなテーマはフォーラムと講習とその他。正副委員長と過去数回すり合わせの会議で練り、本日ここに案を上げている。

1点目。議員フォーラムと書いているが題名は仮称である。議員と大学の総合政策学部もしくは地域政策学部、国際関係学部に学籍を持っている20歳前後の学生とが、どのような関係で地域にかかわれるかということから、いろいろフェアに考えるなら投票問題、投票率の問題、学生はどのように行政や政治にかかわっていかうと考えているのかといったことを、議員とともに意見交換などをすれば、世代間ギャップがありつつも意思疎通が図れるのではないかというのが趣旨である。時期や場所の問題、具体的に学生がどのような構成になるかということを書いているが、伺うところによるとはまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）があるようなので、それが済んでから。学生数名に参加してもらおうと思っているので、日程を今後詰めていかないといけない。

せっかくこのような機会を持つので私のイメージとしては、議員有志と学生とが集まる。党派的にならないようにするには、多少主権者教育について専門的知識を持っている私がジャッジしながら話を盛り上げていくイベントと考えている。出席する学生の

みならず、広報などで住民にも広く知っていただければよい。

2点目に議会講習と書いているが、順序としてはフォーラムを終えた後の12月ごろかと思っている。1月になると入試や卒論があって落ち着かないため年内が候補である。最近の20歳前後の学生はSNSなどをどのように使い、意識を高めているか、認識しているか知っていただく。SNSの技術習得ならプロに任せたほうがよいが、あくまでも学生たちがどのようにSNSに接しているのかを知っていただく。それが議員活動にどのように生かせるか。20前後の若者はどのようなことに関心を持っているかを知っていただくという意味で、3人くらいをめどに議員の質疑応答も含めて理解を深めていただくとよいと思っている。

3点目のその他。この市議会から地域共同研究として、こういうことをやりたいといった項目を今年の2月か3月ごろにいただいている。それに沿うように私もメニューをつくったのだが、予算の都合により全てが決まるわけではない。要望書の中に先進事例の調査や議員のインターンシップということもある。議員インターンシップとなると議員のご希望もあるし学生との関係もある。具体的に話が出てないが、そういうことも想定している。主権者教育の先進事例、希望の有無や予算が絡むが、行ければ行って、見てくることができるかと思う。

三浦委員

共同研究について、その他含めて3点ほどご提示いただいた。内容について皆から質問や意見があれば伺いたい。

川上委員

議会フォーラムという立場で学生と一般学生オーディエンスとなっているが、ノーマルな学生を選ぶのは難しいと思うのだがどういう形で取り組まれるか。私自身オーディエンスがわからない。

光延特任教授

基本的に、仮にここで開催するとして学生10人参加させてもらうとする。そうしたら私も出る。私は今、2年生、3年生、4年生を持っている。私のゼミ生はそれぞれ10人前後くらい。それ以外に授業などで個人的に関係を持っている学生もいる。どこまで背景まで把握できているかは難しいが、懸念されるような学生はいない。仮に40分の10であるとすれば、それなりによく発言できて社会的な行動が取れる学生に参加してもらおうつもりである。

一般学生オーディエンスと書いたが、要は議会活動をどのくらい一般市民に広報するか。これはあくまでも市議会と学生とのイ

ベントで、いちいち広報はしないということであればそれも一つのやり方である。そうなると多くの学生に来てもらう必要はない。ここで考えていたのはいわゆるオンラインでアクセスでき、仮に10人の議員と10人の学生とが話し合っている様子を見ることができるといった手法を考えていた。しかしこれはそもそもどういう趣旨でやるか。やり方は運用次第だと思う。もしオンライン配信ができないならそれでも構わない。

川上委員

聴衆、これがすなわち広報に当たるという形で設けたらよいということだと思う。私としてはそれはぜひやる必要があると思う。

小川委員

この委員会でも主権者教育の必要性について議論してきた。主権者教育は誰もが必要だと言う。若者の投票率が問題になっているが、中立性が強調される昨今、海外で行われているようなディベートなどができる素材がなく知識もない中で社会に出ざるを得ないのが、現在の日本の若者の状況である。欧米のような主権者教育がないまま投票率を上げるための主権者教育というと、我々議員ができるのは議員と学生との意見交換をすることで政治活動の重要性、社会における自分の立場などを知るきっかけになることだと思う。そういう意味でとても有意義である。光延先生が思う、主権者教育の焦点とはどういったものか。

光延特任教授

党派が偏らずフェアに、教科書に書いてあるようなもの。私は社会運動家ではなくあくまでも学問を教える教員なので、特定の運動をやるのが目的ではない。教科書的にお話しするとすれば、例えば最近の投票率、年代によって差があるとか、先の参議院議員選挙、去年行われた市長選挙、市議会議員選挙の様子などといった資料は学生にアンケートを取ったりしてデータはストックしている。データの内容は議員と学生とで共有できる。どういう点で高いか低いかわかれば、若者は行くのか行ってないのか、原因は何かかわかれば、例えば議員が若者へアプローチするとき、どういう点があるから高いか低いかわかれば、自分たちの政治活動の過不足がどういう点かも認識できるのではと思う。だからメディア的に問題になるようなことは恐らくないと思う。

川神委員

先生の言葉には賛同する部分がたくさんある。具体的に地域課題を解決するための議員活動をしている側からすると、学生が期待を持てるまちづくりをしようとなると、ある意味我々にとって

大事な調査だと思う。提案されたフォーラムや各種集会にとっても期待している。私も学生から聞かれたことがあるが、投票率は最終目標なのではない。若者は社会に対して不満がある、どこで解消できるか、なぜそうなっているのか、世の中の仕組みが十分わかってないと指摘されている。したがって我々議員がどういう活動をして何を解決しようとしているのか、その流れを学生と共有できればよい。なぜ選挙が行われ、誰がどう見ている、議員はどんな活動をしていて、学生の意見を聴いたらこういう仕組みの中で物事が動いていく、といったことをきちんと理解していただかないと、ただ選挙に行こう投票率を上げようという結果論ではなく、行ってみたくなる応援したくなるような議員活動をやっている人間がいること、もしかしたら自分が出てみたくなる、そういった素地をつくるためにもこういう活動が非常に重要だと思う。

光延特任教授

そのとおりだと思う。投票率を上げることが目的ではない。先の選挙を見ても前回よりは上がっている。面白みがあれば多分行く。川神委員の言われるように投票率を上げるのが目的ではなく、現状を知るということではないかと思う。

三浦委員長

ほかには。

(「なし」という声あり)

数名の委員からも意見があったが、おおむね先生からご提案いただいた内容で了解いただけた様子である。この場で確認しておいたほうがよいかと思うのが、議会フォーラム議会講習それぞれ参加する議員はどの程度か。何か要望があれば協議しておきたい。

光延特任教授

22人全員がよいかもしれないが、その日の都合もある。私から何人では言えない。学生の用意は10人くらいである。

川上委員

6割くらい出席すれば大体同意とみなすくらいだと思う。したがって一応14人くらいか。

三浦委員長

こうした取り組みを県立大学の光延先生とする中で、こういう内容を決めたということで、全議員にアナウンスをする形で希望を取ろうか。あまりこちらの人数が多くなると学生を緊張させてしまうかもしれないが、こういう取り組みは各議員にご案内してもよいと思う。皆はどうか。

大谷委員

議会として取り組むのだから当然全員に案内した上で希望者を募り、この企画を設定する。その際、時間は2時間程度とのこと

なので人数があまりに多いと論議が進みにくい。これまでの会議でも、発言者が限定されるケースもある。出る以上は全員が話せるような人数設定が要る。この企画の目的を十分に果たすための枠組みも考慮に入れざるを得ない。人数はある程度限定せねばならないし、場合によっては2班に分かれて対応ということもあるのかと感じている。

三浦委員長

先ほど光延先生もおっしゃった、会派などに偏らず、例えば各会派から出していただきあとは正副議長といった規模感で考えれば5、6名になるかと思う、いずれにせよ全議員に情報共有含めてご案内するにして、学生が10名程度想定されることを踏まえて検討してご案内することとしたい。

議会講習は希望者が何人いてもよいかと思う。これも併せて案内して、参加希望者を募って取り組みたい。

日程などは光延先生と正副委員長と事務局とで調整して皆にご案内する流れを取らせていただいでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのようにさせていただく。この件についてほかには。

(2) その他

大谷委員

光延先生にこのような要望が伝えられたと聞こえたが、どのようにこのテーマを選んで伝えられたのか経緯を教えてください。

三浦委員長

この件は主権者教育に取り組みたいということで、その理由等を書いてここで共有したものを共同研究の募集がかかったのが2、3月で、そこに出した。その中で、具体的に何をすべきかをこちらから書いたわけではないが、現状とこういったところに関心を持ちながら主権者教育に取り組む必要があるという趣旨の文面でリクエストした。それに対して先生に計画書をつくっていただいた中で、最終的には当初の予算額より減額はされたが、できることを精査させていただいたという経緯である。こちらから議会フォーラムのようなものを開催していただきたいといった要望を伝えてはいない。しかし先進事例などを先生と打ち合わせさせていただく中で、我々として主権者教育をどのように捉え、どのような取り組みをしたらよいのかが委員会内でも曖昧だったと思う。どういった自治体でどういった取り組みをされているのかといっ

光延先生

たインプットもあると大変ありがたい、とは申し上げた。

補足する。委員長が言われたように、こういう共同研究を考えておられるという応募が大学に来た。具体的にメニューをつくらないといけない。それは私がやって、地域政策部に提出した。書類で残っているので確認していただければわかる。ただ、委員長が言われたように予算要求額のとおりには採択されてないので、圧縮しないといけない。それで2回ほど正副委員長と協議した。それを経て本日の議題のようなものが俎上にのった。

三浦委員長

今配信した資料が共同研究事業の提案書で、ここで皆にお諮りしながらそれを経て担当課へ出したものである。問題意識などはこれまでの話にあったようなことが書かれている。市民への浜田市議会に対する意識調査、主権者教育の先進事例の研究、こうしたことを踏まえて浜田市で推進すべき主権者教育を大学から提案いただきたいという内容になっている。今日の提案は、大学生を絡めて現状把握、意識調査といったところと先進事例の情報提供をいただく。合致しているかと思う。

大谷委員

企画の実現に向けて協議された中で膨れ上がったものだと認識はできた。インターンシップなどは提案書にはなかったのだ。

三浦委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

では先生、このような形で引き続き相談にも乗っていただきたい。よろしく願います。

《 光延特任教授退席 》

2 はまだ議会だよりVol.67について

(1) ページレイアウト

三浦委員長

小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

レイアウトについて皆から質問があるか。

(「なし」という声あり)

ではページ割りつけはこのように進めさせていただく。

(2) 掲載記事及び原稿提出締切

三浦委員長

引き続き小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記
三浦委員長
川上委員
三浦委員長
川上委員
肥後委員
三浦委員長

(以下、資料をもとに説明)

希望があればまず伺いたい。
決算に注目しているので決算の記事をやらせてほしい。
4、5ページは川上委員。ほかに希望がなければ割り振る。
委員会活動レポートも産業建設委員会は私が書く。
市民対談をさせてほしい。
なければ決めていく。

《 以下担当ページの割り振り 》

2ページ目のトピックスは3項目で、大谷委員、沖田委員、川神委員にお願いする。決算は川上委員と村木委員、まるよみについては村武副委員長、市民対談は肥後委員と私で対応する。委員会活動レポートはそれぞれ産業建設委員会が川上委員、福祉環境委員会が村木委員、総務文教委員会が私、協働のまちづくり推進特別委員会が上野委員、議会改革推進特別委員会が村武副委員長、小川委員が議会運営委員会である。負担が大きいようなら委員間で調整してほしい。

小寺書記
三浦委員長

後書きを村木委員にお願いする。
市民対談取材対象として推選等があれば伺いたい。これまでの案で出てきたのは、地域公共交通事業の運営に携わる方。

小寺書記

前の議論ではあるが、石見神楽の関係のこと。先般東京公演のこともあるので。あとは学生ということで県大の方には出ていたが、高校生や中学生もある。

三浦委員長
小寺書記

このタイミングで神楽はどうだろうか。
商業高校の郷土芸能部もある。

(「舞姫社中はどうか」という声あり)

三浦委員長

舞姫社中が候補に出てきたがどうだろうか。東京公演があったことも絡めて神楽を少し取り上げて、対象を舞姫社中にする。

川上委員

舞姫はあちこち出ているので控えておいて、商業高校の子とか東京公演の若手とか女性の方がよいのでは。

三浦委員長
川神委員

東京公演に行かれた方の中から推薦できる方はいるだろうか。
ちょうど今日夕方から社中代表者会議がある。そこで話を振れば共通認識の中で推薦者が出るかもしれない。

三浦委員長

そうしたら川上委員のご意見と、川神委員にもサポートしていただけるようなので、神楽を取り上げてみようか。

肥後委員	石見神楽は取り上げてみたかった。ちょうど東京公演の後で、振り返りと聞きたいこともあるので、賛成である。
三浦委員長	では皆に同意いただいたという理解で、神楽をテーマに市民対談を進めたい。
小寺書記	最終ページの読者アンケートの設問はいかがでしょうか。今回出ているものと前回は、気になっている記事と自由欄だったが。
三浦委員長	各所属委員会等で何か設問を希望されるだろうか。ないようなら前号と同じようにさせていただく。

(3) その他

三浦委員長	ほかにあるか。
小寺書記	スケジュールの説明をさせてほしい。 (以下、資料をもとに説明)
三浦委員長	締め切りがそれぞれあるが、協力をよろしく願います。

3 はまだ議会だよりminiについて

(1) 第16号掲載内容及び原稿担当

三浦委員長	小寺書記から説明をお願いします。
小寺書記	(以下、資料をもとに説明)
三浦委員長	2項目程度と議員のつぶやきを決めたい。オンライン研修会のことを掲載してはどうかと思うが、一つはそれでよろしいか。 (「異議なし」という声あり) もう一つ、皆からご意見があれば伺いたい。
小寺書記	市民一日議会の関係だが、去年は7月に開催だったので7月1日発行号で準備の内容や申し込み者の状況などを速報として出し、傍聴を呼びかけた。
三浦委員長	募集はもう終わっているタイミングなので二つ目はそれにしたい。書いてみたい方、我こそはという方は。
肥後委員	オンライン勉強会を担当したい。
三浦委員長	二つ目の市民一日議会は、こちらでやる。議員のつぶやきをどなたか。まだつぶやいてない方。
村武副委員長	私は一度書いたが、9月25日に認知症を題材にした映画が上映される。見に行く予定なのでそれを書いてもよいか。
三浦委員長	よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

続けていると話題もだんだんなくなってくるので、日ごろからつぶやきのネタを市内でしっかり探していただくようお願いする。

(2) その他

三浦委員長

この件は以上でよろしいか。

(「はい」という声あり)

4 議会報告会について

(1) 集約意見の確認

三浦委員長

資料にあるとおり、7月22日の委員会で、議会報告会に対する各委員からいただいた意見を列挙した。今後の議会報告会の実施方法について大谷委員から問題提起もあったのだが、改めて皆の意見を伺いながら、どのように実施していくか意見交換をしたい。何か補足はあるか。

肥後委員

今回三隅地域協議会との意見交換会で司会を担当したのだが、意見交換会が終わった後にも少し話ができただ。ここで取り上げたように、よい部分悪い部分それぞれ意見があった。その中で単発だとそれで終わってしまうので、継続してやっていきたいのだが、コロナ禍でもあるので。しかるべきタイミングがいつなのかわからないが、今後も回数が年2回程度に増やせればよいのかと個人的に思う。この先もこの取り組みを続けたい。

三浦委員長

議会報告会の実施はすべきということか。対面やオンラインといった手法についてはどのように考えているか。

肥後委員

地域協議会のメンバー構成を見ると若手が少ないので、対面かなと思うが、若い参加者がまた別の形で募れば。オンラインも並行して取り組んでいきたい。

三浦委員長

再度確認だが、地域協議会との意見交換会は、それまでワークショップ形式の議会報告会をやっていたが感染予防のために手法を再検討し、地域の代表者が来られる場で議会報告会をしようということで行っているのだが、地域協議会に行かれる中で議会報告会というものをどのように捉えたか、もう一度補足してもらえないか。

肥後委員

実際に議員として地域の方と意見を交換する中で、よい部分悪

- い部分があった。
- 村木委員 地域協議会の報告ではなく。
- 三浦委員長 はい、議会報告会について。
- 村木委員 やはり何らかの形で実現すべきだと思う。この前の地域協議会の対面を見ると、やはり対面のほうがよいと改めて思った。
- 大谷委員 前も触れたように議会基本条例に示されているので、特段の事情がない限りは実施する方向がよろしい。コロナは心配ではあるが、条件をクリアしているのであれば対面のほうが話しやすいし、実感が持てる。可能なら対面を目指すべきかと思う。
- 沖田委員 議会報告会は前のめりに参加する地域とそうでない地域とで、結構温度差があるというのが率直な意見である。無理してやるものなのかという印象も正直持っている。そのときに思ったのは、例えばまちづくりセンター単位ではだめなのかと。1期目のときに、例え小さい単位でも呼ばれば行くというスタイルもあるのではと言わせてもらったことがある。例えば希望を募って出向くスタイルがあってもよい気がしている。柔軟性を持ったぎくばらんな報告会を目指してもよいのでは。もちろん対面がよいが、オンラインを希望する声に応えられるようにしておくべきだろう。
- 川上委員 書いてあるとおりテーマを絞って回数を増やすべきだし、多分対面を求められている。上野委員も言われるとおり報告会は必要だと思う。議員が何を考えているか聞きたいのだと言われるので、何とか機会をつくりたい。
- 小川委員 議会報告会自体はやる必要があると思う。密を避けるために違う方法を模索したが、できればオンラインでもやると、これまでの議会報告会には来ていなかった層が参加される可能性もある。そういう事例を全国で聞くので、そういう方向を模索してもよかったのかもしれない。このままいくと感染予防対策さえすれば対面でもできそうな雰囲気は少しずつできつつあるので、時期は不明ながら再開する方向で検討したほうがよい。以前のようなスタイルは継続したほうがよい。
- 上野委員 できるだけ議会報告会を対面でやっていただきたい。議会報告会には高齢者が結構来られて自分の思いを言われるのでよいと思う。地域協議会の話をお聴くと、それぞれの地域の人の声をあまり聴いているように思えない。それより議会報告会のほうがよかつ

た。できるだけ再開していただきたい。

川神委員

基本的には当然やるべきだろうと思うし、やる効果は大きいと思っている。そもそも数か月前から町内活動、自治会活動に関しては、飲食が伴わなければ基本的な感染防止対策を行った上で、積極的に推進しようという市の立場である。そうなるとう飲食がなければ対面会議もできるし、それだけの準備もすべきだと思っている。換気についてはCO₂メーターで、数値が上がれば換気をするといった対応をすれば十分だろう。それを踏まえて積極的に準備していく必要があると思っている。

その光景を例えばオンライン配信して、いろいろな人間がそこに入れるようなハイブリッドな環境をつくる必要があると思う。

村武副委員長

議会報告会は積極的にやっていったほうがよい。コロナの状況も変わってきている。コロナだからオンラインをやるのではなく、今まで私が経験してきた議会報告会では、旭のように参加者が多いところもあるし、数名というところもあるので、どうやって参加者を増やすのかも考えないといけない。ハイブリッドのような形を取るともしかしたら若者も参加しやすくなるのかと思う。ただ、若い方だからオンラインに参加するかということ、そこはどうかと思っている。浜田には若くてもオンライン会議に参加したことがない方がたくさんおられると思う。要は若者を取り込む手法についてもう少し研究したり協議したりする必要があると思う。

三浦委員長

皆の意見を伺う中で、コロナ禍になる前は年2回議会報告会を開催して、そのうち1回は地域井戸端会と名称を変えて議会報告の時間をあまり取らず、意見交換に多くの時間を割くスタイルでやっていた。議会報告会は年度当初に議会報告会という名称で行い、パワーポイントも使って当初予算の様子も説明しつつ、議会の様子を説明する時間を比較的取っていた。それが、感染拡大防止のために特定の人を対象にするスタイルで何とか広聴機能を担保しようというところから、地域協議会との意見交換会という流れに至っている。コロナ前のスタイルに戻すのなら年2回程度地域に出向き、テーマを決めて関心のあるところに座ってもらい、そのテーブルを担当した議員とやり取りするスタイルに戻すかどうか。その場合、地域協議会との意見交換会はやめるのか。テーマをしぼったほうが議論は深まるが、テーマを決めず日常生活で

思っていることを言ってもらう時間をつくったほうがよいのではという指摘もあったので、少し議論が必要かと思う。皆はほかの委員の発言などから思うところがあれば伺いたい。かつてのスタイルに戻す方針で考えている方が多いのだろうか。沖田委員からも指摘があったが、かつてのスタイルでやっているときにも来られる方が固定化する、人数が集まりにくいといった課題は抱えながらやってはいたが。

川上委員

かつての形でも構わないが、ただ範囲を絞ったほうがよい。

村武副委員長

旭に伺ったことがあるが、たくさんの方が来てくれた。多すぎると逆に皆のご意見が聴きにくいことも考えたほうがよい。

沖田委員

川上委員の意見に賛成である。金城や旭などは一つの公民館で意見集約と言えるのかと思った。金城だけでも公民館が六つある。班が6人ならそれを3人・3人に分けてでも、より意見を聴いてほしい地域とそうでない地域とで多少はむらが出ると思う。そこはもう少し細分化するほうがより丁寧かと思う。とはいえ集まりが悪いところはやめようという話ではない。需要が高いところはもう少し細分化して、より丁寧に対応していくべきだろう。

三浦委員長

エリアを細かくしたほうがよいのでは。細かくすることで回数と場所が増えるので、班の人数を半分にしても対応したほうがよいのではというアイデアだった。

沖田委員

地域によってより小さな範囲になると、参加者も意見が言いやすくなるのでは。

川神委員

基本的には以前の形に戻してよいと思う。ただ報告会よりも地域井戸端会のような形を重視した開催のほうがよいのでは。また、エリアを小さくするのはよいが、それだけの労力を議員が覚悟しないといけない。地域は議員が何人行かないと納得しないというものではないので、行ってきちんと話を聴く。それが2人でも3人でも数の問題ではなく、分散して作業量を適切にして多くの地域を回るほうがよいと感じている。また、テーマをある程度事前に絞れたらよいがそうでないならいつもの方が来るというなら、その地域で中核的に頑張っている中堅層や若手が中心になって集まっていただけの体制が組めると非常によい。テーマを決めれば向こうからも関心を持ってくれる一助になると思う。

三浦委員長

ほかに。地域協議会との意見交換会は皆どのようにお考えか。

- 川神委員 要るだろうか。今そのようにシフトしてもう1回やるなら、そのかわりに地域協議会との意見交換という形で集約して、何とか広聴機能を高めようとしているが、我々が本当に聴きたいのは住民の生の声である。どうしても役名がついた方が出ると身構えていろいろな形で来られる。地域井戸端会の形に力を入れるなら、なくてもよいのでは。
- 川上委員 必要であるかどうかは別にして、地域井戸端会などがなかなかできないならこういう手法もあるとは思った。
- 大谷委員 従来 of 議会報告会が開催できないということで地域協議会との意見交換会をやったと受けとめている。ならば、前の形で実施できるなら地域協議会との意見交換会はなくしてもよいかと思う。ただ、2回やってよかったという声はあったので、このあたりは議会報告会に戻していくならしっかり伝えないといけない。
- 沖田委員 地域協議会との意見交換会、私は2回弥栄に行ったが非常によい機会だと思う。これをなくすのもありかもしれないが、無理してなくす必要はない。向こうから意見交換会を年に1回くらいやってほしいという地域もあれば、必要ないという地域もある。求められるなら議会として行ったらどうかと思う。
- 小川委員 去年はもっと頻繁にやってくれという雰囲気だったが、今年は逆の意見があった。そもそも地域協議会は市長の附属機関であり、それがなぜ議員と意見交換しなければいけないのかといった、今までと違う視点だったので今年は少し疑問を感じた。もともとコロナ禍で地域の声が聴けないので、せめて地域協議会のメンバーなら地域の声をつかんでいるだろうからそこと意見交換をしてはどうか、というところからスタートしているので、議会報告会ができる環境を整えば、もとに戻すべきではと今は思っている。
- 上野委員 私ももとに戻すなら地域協議会との意見交換はやめたほうがよいと思う。
- 三浦委員長 いずれにせよ議会報告会を開催することは条例にも書かれており、議会活動を市民に伝える機会を持つという意味だと理解しているので、相手が地域協議会でもそうでなくても、議会が今どういう状況にあるのかを伝える時間を取る必要があるかと思う。地域協議会との意見交換会では議会の報告といった時間は特に取っておらず、意見交換に視点を当てている状況なので、議会活動

を報告する時間は確保すべきではないかと思っている。地域協議会と議会が意見交換会をするのはどうなのかという意見が出ていたことは認識しているが、議会と意見交換してはいけないというものではないと理解している。ただ、私が参加した三隅では時間が大変足りず、言いたいことが全部言えなかったため、続けて2回3回やりたいといった声があったことも共有しておきたい。

いずれにせよ、地域協議会との意見交換会は事前にテーマを設定して臨んでいるので、そういう意味では今までやっていた議会報告会で要望を伺って持ち帰るといったやり取りをその場でやるよりは、比較的議論が深まりやすいという利点がある。

今日改めて皆からニュアンスを伺いながら、コロナの状況も見ながらだが、かつて年2回行っていた議会報告会や地域井戸端会の形式に戻してはどうかという意見が多かったように思う。そこを踏まえてまた情報整理して皆に戻す形でご意見を伺う時間をまた次回にでも取りたい。よろしく願います。

(2) その他

三浦委員長

ほかにないか。

(「なし」という声あり)

5 その他

三浦委員長

小寺書記から願います。

小寺書記

1点確認を。先ほど光延先生から共同研究はこういった形でどうかと提案があり、委員会の中でやっていくことになったのでそれについては全員協議会で全議員に報告する形でよいだろうか。

三浦委員長

また私から皆に報告させていただく。

小寺書記

ほかに皆からなければ次回の委員会日程について。9月16日金曜日、午後1時半からお願いできればと思う。

三浦委員長

よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

小寺書記

では9月16日金曜日、13時半から。全員協議会室で。

また、9月30日の議会広報広聴委員会、午前9時からもよろしく願います。

三浦委員長

9月定例会議中ではあるが、こちらにも執筆をお願いしている部

- 分が結構あり、大変な月になるかと思うが何とぞご了解・ご協力をよろしく願います。ほかに皆から何かあるか。
- 村木委員 地域協議会との意見交換会で、私は旭に行ったのだが、それ以外の記録はどこか見られるのか。
- 小寺書記 去年と同じ流れで考えているのだが、全ての報告書が出そろった時点で各班長から全員協議会で報告書をもとに全議員に報告いただくよう考えている。浜田以外の四つの地域は出ているので浜田が出たらということで。9月1日全員協議会には間に合わないと思うので、最終日の全員協議会でできたらよいと考えている。
- 三浦委員長 ほかに。
- 笹田議長 先日いろいろ広報広聴の話があったのだが、はまだ議会だよりや広報に関するところではという意見もあった。議会広報広聴委員会は委員会条例に定められているように、広報と広聴の機能を充実するとうたっているので、議会全体に伴う行動をさらに充実させていただきたい。議長としても非常に進んでいると感じているので、引き続きよろしく願います。
- 三浦委員長 以上をもって議会広報広聴委員会を終了する。

[15時 12分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀